

## 会議録

|             |   |
|-------------|---|
| 会議の名称及び会議の回 | 第3回飯田市中学生期の文化芸術・スポーツ活動連携協議会 文化部会                  |
| 開催日時        | 令和5年10月2日(月) 午後7時00分～8時45分                        |
| 開催場所        | 飯田市役所3階 C311-C313 会議室                             |
| 出席委員氏名      | 別紙名簿  |
| 欠席委員氏名      | 山崎久孝委員  |
| 傍聴者         | なし  |
| 出席事務局職員氏名   | 生涯学習・スポーツ課 伊藤課長、社会教育 本島係長、樋口主事、賜部活動地域移行支援コーディネーター |
| 会議の概要       | 以下のとおり  |

### ○協議・確認事項されたこと

#### 令和8年度に向けた基本的な考え方

- ・生徒の選択肢を広げるための取組であり、誰もが参加できる場づくりを進める。
- ・生徒のための環境整備と合わせて、地域全体の文化芸術・スポーツ活動の振興につなげる。

#### 文化部活動の地域クラブへの移行に向けた令和6年度取組(案)について

##### 1 拠点校部活動の導入について

- ・現在、休日に活動をしている生徒への影響を少なくするため、現在休日に活動のある吹奏楽部と合唱部については拠点校部活動を導入する。顧問の先生に加え、地域の指導者に入ってもらうことで、将来的な地域クラブの運営を担う人材発掘につなげる。

##### 2 地域全体の文化芸術の振興について

- ・全市型クラブ(様々な分野にチャレンジできる場)について、現状調査と並行して試行的に実践していく。

#### 1 開会

#### 2 挨拶 (塩澤部会長)

#### 3 報告事項 (事務局 樋口主事)

7/31 協議会の振り返り

- ・スポーツ庁・文化庁からの提言 [参考資料1](#)
- ・部活動地域移行を見すえた『めざす姿』～中学生のためのより良い文化芸術・スポーツ活動の場づくりのための取組の全体像～ [参考資料2](#)
- ・休日部活動の地域連携・地域クラブへの段階的な移行イメージ [参考資料3](#)  
～事務局より説明～ →補足・意見等なし

#### 4 協議

文化部活動の地域クラブへの移行に向けた令和6年度取組(案) [資料1](#)

##### (事務局 樋口主事)

ア 拠点校部活動の導入について

- ・拠点校部活動エリアモデル [資料2](#)
- R5 部活動アンケート集計結果 [別紙1](#)
- 長野県地域スポーツ・文化芸術活動推進連絡協議会アンケート結果(情報共有) [別紙2-1](#)

イ 地域全体の文化芸術の振興について

- ・全市型クラブ（楽しむ場）の検討について 資料3
- ・飯田市の目指す移行モデル 資料4
- ・エンジョイスクエアについて（情報共有） 別紙2-2

○質疑応答

(1) 費用について

- 拠点校方式については賛成。ただ、吹奏楽部は1年間の運営に結構なお金がかかっており、それを受益者負担としていくのか、今後も学校予算として見ていただけるのか。また、拠点校で活動する場合、予算を拠点校に配当するのか、各校に配当するのかも今後検討していただきたい。楽器を持っていないと活動に参加できないという時代になってしまわないか不安。

⇒今回提案させていただいたのは休日の部活動の当面の形なので、平日の活動について3年間くらいはこれまでの活動が継続していくと想定している。費用負担については、平日の完全移行も踏まえて一緒に整理をしていくことになるかと思う。当面は学校にある楽器等を使用しながら、この3年間くらいの中で、どういうふうに整理していくか検討していきたい。

保護者負担にするのかどうかというのは大きなポイントだと思っている。また、体験をした活動によって費用負担の差が出てくるのが予想されるので、こうした部分をどう整理していくかも課題だと感じている。5年、10年とかかる取組だと考えているので、様々なことを試し、改善を加えながら進めていきたい。

(2) 大会・練習等の運営について

- 吹奏楽連盟は学校職員で組織されており、コンクールの運営等を行っている。今後、連盟の在り方をどうしていくかを考えていかなければいけない。これまでの職員主体で動いていた行事をどうしていくかを一緒に考えていけたらと思う。

⇒スポーツの中体連でも、先生方がそういった大会運営を担ってきていただいたところがあり、将来的にその構造が良いのかどうか大きなポイントだと思っている。言い方を変えると、今後は希望いただいた方が指導者になっていただけることもあると思っており、将来的には、地域も学校も区別をなく、これからの地域の文化芸術の振興をどうしていくかを考えていくことになると思うので、一緒に相談させていただきたいと思う。

- 冬場に平日活動をせず、土日のみの活動とした場合、そこに顧問が参加しないとすると、半年近く部員に合わない時期が生まれてしまい、こうした状況には反発が出るのが予想される。また、冬場に開催されるアンサンブルコンテストをどうするのかという意見が出ることも予想される。

⇒飯田市が、放課部活動を行わない期間を11月からと定めているのは、個人の感覚ではスポーツを中心に組み立てた考え方だと思っている。なので、あくまで個人的な考えではあるが、放課後部活動を行わない時期について、それぞれの活動（分野）に応じて、必要な時期に休むという考え方に変えても良いのではないかと考えている。これから教育委員会全体の中で合意形成をしていかなければいけないが、文化系は冬場の方が大会等に向けて活動を充実させたいという面もあると思われるので、こうした部分も整理していく必要があると思われる。

顧問の先生と生徒が会わない期間が生じることについては、顧問の先生と生徒の関係性は大事だと思うので、それぞれの学校の顧問の先生も含めて相談させていただきたい。今、校長先生と話をしている段階であるが、具体的な活動の場作りに向かっては、顧問の先生と必ず相談させていただく機会を作らなければいけないと思っている。

### (3) 拠点校部活動について

- 拠点校方式について、吹奏楽部については資料にあるエリアモデルでジブン・チャレンジ期間中に1回でも2回でも実際に練習をしてみれば良いと思う。一緒に練習をする中で課題等、新たな発見があるかもしれない。
- 旭中と鼎中は距離的にも近く、一緒に活動をすることで、活動の幅も広がりそうだと思っている。今年度中に1回でも顔合わせを含めて練習をやっておくと、「楽器をどうするか」というような事がイメージが付きやすいのではないかと思う。1回で上手いかなかったとしても、「こういうふうにしたらどうか」というアイデアも出るかもしれないので、ぜひ、やっておくべきかなと思う。
- 下伊那の中学の合唱部は、旭中と緑中だけで、緑中は3年生が引退すると2人しかいないという状況。来年から一緒にコンクールに出ないかという話を、少し前から、緑中の顧問の先生ともししており、まずは緑中と一緒にやってみたい。「歌を歌いたい」という生徒は他校にもいると思うので、こうした生徒も入って、広がっていくのがベストだと思う。

ただ、「歌いたいけどコンクール出たくない」という生徒がいる事も考えられるので、最初から広げ過ぎずに、まずは旭中と緑中でやってみて、色々と見えてきたところで、他校の生徒にどうやって入ってもらおうと良いのか等を考えていければと考えている。

まずやってみないと分からないので、この秋に、試しにやってみたいと思っている。旭中の部活の生徒には、少しずつ浸透させてきており、おそらくお家の方にも伝わってきているのではないかと思う。まずは保護者の方に説明をしてからやらないといけないので、そこから進めようと思っている。
- 生徒がどんなことに不安を感じているのかについても、把握していく必要があるが、やってみないと分からない。

### ○意見交換

全市型クラブ（様々な分野にチャレンジする場）をどのようにして作っていくか

- 以前、吹奏楽部の生徒がマンドリンをやって「音が出た」と言っていて喜んでいたので、色々な物に出会うきっかけがあるのは良いと思う。管楽器はすぐに音を出すのは難しいが、すぐに音の出る弦楽器や打楽器であれば、半日や2時間の講座があっても良いと思う。
- 先日、岐阜県の学校の不登校の生徒が通う教室を見学に行ったが、色々な楽器が置いてあって、自由に触れることができる教室で、大人の私から見ても魅力的だった。教室には担当の先生が必ずついて、色々な指導をしてくださるということであった。そういった場所があって、興味のある生徒が気軽に行けて、いろんなことが教わることで良いと思ったので、こうした取組は良いのではないかと感じた。
- 文化系の活動は短期間で完結することは難しいと思っており、1年を通してやっていくことが必要ではないかと感じる。また、文化系部活動に参加している生徒の傾向として、積極的に自分から参加する生徒は少ないのではないかと感じており、こうした生徒をどう取り込んでいくかを考えていく必要がある。
- 拠点校部活動について、吹奏楽部で提案のあったように技術向上を目指す生徒と全くの初心者の生徒を分けて活動の場を考えるとという考え方には賛成。
- ポップス系のフォーク系、バンド系であれば、すぐにでも受け入れはできると思う。大人が中学生に教えるとしたら、喜んで教えてくれる人たちもたくさんいると思う。また、高校生に教えさせるのも面白いと思う。高校生のクラブの部長級の生徒たちの多くは、自分のクラブにも入ってほしいので、中学生のうちに後輩を育てたいという思いを持っている。例えば「ムトスぷらざ」みたいな場所で、指導をする高校生を集めて中学生と活動すると、中学生の活動に高校生も絡み、中高連携みたいな形も取れるのではないかと思う。

- 部活動は課外活動ですので、早いところ教育の手から離してくれた方がありがたい。我々の社会教育・公民館の分野では、今まで何かの地域行事等の催しをやる時に、中学生は大会や部活動があるのでターゲットにしてこなかった。中学生をターゲットに出来るとなると可能性が広がる。社会教育の分野、特に公民館もそうだが、やはりトライアンドエラーしなきゃいけない今のところ中学生はまだ学校に囚われている状態ではないかと思う。

また、活動の場が地域へ移る際に、窓口になってコーディネートできる人材や、全体のマネージメントをできる能力が組織として必要。プレイヤーだけでなく、それをサポートする人材育成について、これまで大会の運営等の仕組みの中だけで育成されてきたと思うが、こうした部分も社会に放り出してもらえた方が、我々の方はやりやすいのかなと思う。

部活等が楽になったせいもあるのか、市民大学や公民館の文化祭等に若い子たちが結構来ている。特にコロナの時にはすごく来てくれたが、通常に戻ってくると、部活等が忙しくなったからか、来なくなってしまった。なので、教育の世界の方の人たちがチャレンジをして、中学生、小学生、高校生が我々（社会）のターゲットになるようにしてほしい。そのためには、先生とお互いに情報共有する場面が必要になり、そこをどこが担うかっていうところから進めた方が良い。

- 地域へ移行した時に、正常に運営しているかどうかを見て行く必要があると思うが、チェック機能みたいなものはあるのか。教育委員会が絡んだ話になれば、丸投げという話にはならないと思うので、報告機能みたいな実務的な部分をどうするかを考えてないといけない。

⇒10 ページの資料に、未確定な組織だが、「飯田地域クラブ」というものを想定している。「運営主体例」の下の部分に、「教育委員会は全体を把握して、クラブ運営を管理していく」としており、チェック機能はこの部分に置こうと考えている。

「飯田地域クラブ」への加入のメリットとしては、安全安心（信頼感）が担保できることや、送迎の問題、保護者の負担に対して、ある程度の支援が受けられる等の仕組みを考えている。

この仕組みについては、あと1年、2年かけて整理していかなければならないと考えている。

- 今までは、「大人は大人」、「中学生は中学生」で活動をしていて、いろんな世代が一緒になって活動する機会が与えられることに非常に興味を持っている。そうした活動の拠点の1つとして飯田市美術博物館が大きな存在になると思う。飯田市美術博物館では展示と実技的な活動を一緒にしたようなこともやっており、こうした取組に可能性を感じている。
- 私は南信美術会の会長やっているが、絵や彫刻、工芸、染色、焼き物、木彫等、様々な活動があり、こうした取組に協力してくれそうな人材はいるのではないかと考えている。
- 南信美術会では、南信美術展に高校生を対象としたジュニア部という部門を設けて、高校生を積極的に誘って出品してもらい、生徒が自身の作品を自慢する機会を設けたりしている。また、今度の県展では、高校生の一日学芸員という取組があり、高校生に心惹かれる作品を選んでもらい、高校生同士で対話型鑑賞を実施する予定。だんだんと、こうした若い世代に目を向けて、中学生まで広げていきたいと思っている。
- 中学校に生徒が囚われているというのはそのとおりでいう実感がある。逆に「部」があるから顧問も縛られているという状況もあるので、令和8年度には各学校の部活動の募集をやめても良いのではないかと。拠点校の中で様々なサークル（クラブ）の要項を配り、生徒がその活動に参加するようにすれば、先生も生徒も部活に縛られることはなくなるのではないかと。
- 飯田市の良いところは、部活動への規制が長野県の中でも一番厳しいこと。職員もそれをしっかり守っていて、休日どちらかは休むという意識も浸透している。段階的な移行のビジョンをしっかりと説明した上で、思い切って令和8年度には部活動の募集をやめますと伝えてもらえれば、みんな理解してくれるのではないかと。

## 5 内田アドバイザーからのお話

- ・ 県の動きは、資料に出ている新聞記事のとおり。この場で言えることは、活動指針の改定版や推

進計画等は今年度中に出す予定であるということ。

- ・文化芸術の地域移行はすごく可能性があると思う。自分の娘が中学校1年生だが、美術部に入りたかったが、美術部がなかったそう。先生に相談してみたが難しかったようで、今は卓球部に入って友達と楽しくやっている。こうしたニーズは絶対あると思う。今、違う部活に入っているけど本当は「イラストを描いてみたい」、「歌を歌いたい」という潜在的なニーズはあると思う。
- ・大人としても、趣味のギターや釣りを一緒にやると考えたらワクワクする。ただ、送り出す保護者からしたら、知らない大人に川や湖に連れて行かれて「大丈夫か」と感じると思う。そういった安心安全をどこかで保証してくださるとすれば、手をあげたいという大人は、きっといるんじゃないかというふうに感じたので、そんなような場を一緒に作っていったら良いと感じた。

## 6 その他、連絡

### (1) 今後の進め方について

- |              |           |                       |
|--------------|-----------|-----------------------|
| ・関係団体との協議    | ～11月      | 校長会、各団体等との個別協議、推進計画検討 |
| ・協議会本部会      | 11月16日(木) | 推進計画(素案)提示、意見集約～12月末  |
| ・協議会本部会(全体会) | 2月中旬 ※予定  | 推進計画案(案)提示、意見集約～3月中旬  |
| ・推進計画策定      | 3月末 ※予定   |                       |

### (2) その他

## 7 閉会